

## 「夢と感動を支える者として」

西村 雄一

新43回生 1991年卒業



(公財) 日本サッカー協会 プロフェッショナルレフェリー

サッカー審判員として27年目のシーズンを活動しています。私がサッカー4級審判員の資格を取得したのは、新宿高校在学中の17歳の時になります。今でこそJリーグを担当するプ

幼い頃からサッカーが大好きで、17歳の時は「選手」としてプレーし、子どもたちにサッカーを教える「指導者」もやっていて、「審判」になろうなんてまったく思っていませんでした。では、なぜ審判員になったのか？それは、指導している子どもたちの試合で審判の判定ミスにより悔しがると感じ、子どもたちの顔を見て、これは何かが違うと感じ、「審判は子どもたちの夢を支える存在」なのではないかと思い審判活動を始めました。

ちょうどその時、柔道の審判員としても活躍されていた体育科の川嶋直司先生に、審判員としての心得を教えていただいたことが、より本格的に審判活動を志すきっかけとなりました。ちなみに当時は、WindowsやMacなどのPCではなくワープロ全盛期の時代、まして、スマートフォンやインターネットは全く普及していない頃でした。審判活動以外にやりたいことを見つけられない私は、コンピューターは面白そうだなと興味をもち、1年の浪人生活を経て日本電子工学院専門学校情報処理科で2年間学びました。そして、企業向けオフィス機器の販売メンテナンス会社(株)ボナファイドに営業職として入社しました。コンピューターの勉強をしてわかったことは、私はコンピューターの構造を突き詰めるよりも、この素晴らしい機器を人が使って様々な場面で活かすことを薦めたいと気づき、人と人とのつながりを大切にする営業職を選びました。

社会人として10年間、人と人とのつながりを学んだことが、現在の審判活動にとっても活かされています。なぜなら、「審判」はただ機械的に判定しているのではなく、選手と一緒に人間が創り出す「夢」や「感動」をサポートする存在だからです。もし、判定を間違えてしまうと、選手の運命に影響を与えてしまいます。とても責任重大な任務です。スポーツは活躍する選手のためにあり、スポーツの感動が多くの皆様を幸せにすることができる。だからこそ審判員として「人間力」を活用し、夢や感動を支える者として、選手が輝けるように全力を尽くすことに取り組んでいます。

ロフェッショナルレフェリーという職業となっていますが、当時はまだサッカープロ審判員という職業は確立されていませんでした。

さて、いまお伝えしたとおり、私が皆様と同じ歳の頃に得たきっかけから現在に至るまでをご紹介させていただきました。一生懸命に生きていく中で「夢」や「目標」は、突然現れたり、途中で変わったり、常に進化していくのだと思います。皆様には、慌てずに、じっくり考えて、自分が大切にすべきものを見つけていただきたいと思います。

もちろん、「夢」や「目標」がそんなに簡単に見つかるとは限りませんし、今はよくわからないという方も心配いりません。ちなみに、夢のきっかけは身近なところに存在しています。例えば、皆様の周りには必ず応援してくれる人がいます。その応援してくれる人の期待に応えることは、その人の夢や喜びをかなえることとなります。この「誰かに喜んでもらえること」が自分の夢のきっかけとなることがあります。

それから、すでに「夢」や「目標」が明確な方は、ぜひその「夢の中」に入り込んでください。「夢中」になると、失敗や困難なことがあっても、必ず乗り越えられるので、ぜひ「夢中」になって「チャレンジ」して「チャンス」を掴んでほしいと思います。

もちろん、チャレンジしてもうまくいかないことがあります。一方で、ミスを恐れてチャレンジせずに、あとから「やっておけばよかったなあ」と後悔することもあります。どちらにも失敗のリスクがあるならば、まずはチャレンジして成功する可能性を探るべきです。チャレンジした結果の失敗はまったく問題ありません。大切なことは、同じ失敗を繰り返さないこと。チャレンジして起きた失敗の数だけ人は成長できます。

最後に、これからが皆様が自分で1歩を踏み出す大切な時です。ぜひ皆様には、ミスを恐れずに自分の可能性を信じて、希望と勇気を胸にチャレンジを続けていただきたいと心より願っています。

(朝陽同窓会のご協力を得て「先哲からの言葉」を掲載しています。)